庭樹、バラ、高山植物の冬囲いについて

石田文三郎

春から夏にかけて繁茂した庭樹、バラ、高山植物は秋の十月中旬から常緑樹をのぞき、外の樹は色づいて、ある植物は紅葉、ある植物は黄葉し、やがては落葉して冬ごもりに入るものであります。東京附近の様にあまり冬の温度も零下三〜四度しか下らず雪も多少は降るが五〇糎も六〇糎も降らぬようなところではそれほど庭樹やバラの冬囲いの心配もないのですが、北海道では庭樹やバラ、高山植物は相当の冬囲いをしなければ、せつかくの夏の間丹誠繁茂したものも一冬の間に冬枯れや雪のために枝を損傷させることが多いものです。冬季間に備え、準備しておきたいことについて述べてみましよう。

庭樹の冬囲い

北海道の庭園は北海道の山野にある樹木を庭園樹として植込んであるものは、さほど冬囲いをいたさなくも冬の間における寒さや雪のために傷められることが少ないが、本州方面から輸入したものなどについては、是非冬囲いをしなければなりません。

灌木類

ヤマツツジ、エゾムラサキツツジ、レンゲツツジ、ヨドガワツツジ、ムラサキヤシホツツジ、ドウダンツツジ、ミツバツツジ、これらの灌木類は冬の寒さに対しては殆ど傷むという事は少ないのであるが、冬季間雪のために押し潰されることがあるので、十月下旬から十一月初め頃に株の根元の幹に縄を縛りつけ、それを上方に向つて枝を内に入れ、ぐるぐる上に巻き上げてしばり、その周囲に根曲竹を株の大小に依り四、五本から十本ぐらい周囲に立て円錐形にして先端を一カ所にまとめてしばり、竹と竹との間は碁目になるよう縄で囲み、雪のために押し潰されぬようにしてやることが心要です。

シャクナゲ類

北海道に産するエゾシロハナシャクナゲ及び本州産のシャクナゲは前に述べたツツジ類の冬囲いと同じ方法で冬囲いし莚などで囲うとかえつて冬の間に雪の中で蒸れて結果が思わしくない。ただし外国産のシャクナゲ類のピンクパール、ホワイトパールなどは冬の寒さに弱いので、十一月初め頃土木縄で根元から上の方に枝を横に出さぬよう螺旋に縛り上げ、更にその周囲に根曲竹四、五本立て先端を集めて束ね、その上に莚を二枚乃至三枚ぐらい重ねて巻き、葉や幹が外に見えぬよう囲つて、莚の外側を二、三カ所束ねて防寒してやることが必要である。一番よい方法は、秋十月下旬頃地面から掘り取つて、地室に植込んで越冬させてから春雪どけ後、外に植込むのが一番安全である。

リュウキュウツツジ、牡丹、アジサイ、玉イブキ、ツゲなどは冬の寒さに弱いのと雪のために枝折れするので冬囲いしてやらなければなりません。その方法は、前に述べたツツジ類と同じように竹を立て囲つた外を更に莚を使つて巻き上方で束ね莚の間を三カ所位束ねてやればよろしいのであるが、この際、余り大事に過ぎて莚を三重にも巻くということは蒸れるのでかえつて樹を枯らすことがあるから、莚は一重ぐらいで囲つてやることが適当である。

松の樹やオンコの枝釣り

松の樹やオンコの樹は冬の間、寒さには強いが、雪のために枝が雪折れする場合があるので、枝を縄で釣つてやることが必要である。

その釣り方は次のようにするのがよい。松の樹やオンコの樹の枝を釣る場合、その庭木より二尺ぐらい高い丸太を用意し、この丸太を松の木またはオンコの幹に添えて立て、縄で幹にしつかり結びつけ、その丸太の先端に土木縄を樹の大きさや枝張等により十本から二、三十本ぐらい固く結び、その長さは枝の高低により下の方にある枝の縄は長く、上の方にある枝の縄は短くなるようにし、しかもこの縄は一方にならぬよう四方から釣つてやることが必要である。枝を釣る場合、自然の姿で、別に高く釣つたり低く釣つたりする必要はない。このようにすれば雪のために枝折を防ぐことができる。

庭木幼苗の冬囲い

オンコ、ライラック、松類などで高さが六十糎内外のものはそのまま越冬させると雪のために幹が折れることがあるので、一株ごとに根曲竹を根元に一本立て、その根元から縄で螺旋状に枝を中に入れるように上の方に巻き上げ、苗の先端で硬く結んでやることが必要である。この縄を巻く際、固く巻き上げて結ばぬと雪の重みで苗だけがくしやくしやに押潰されて、かえつて悪い結果になりますので注意が必要です。

バラの冬囲い

東京附近ならバラの冬囲いの必要はあまりありませんが、北海道のように冬の寒さが強く雪の降るところでは必ず冬囲いの必要があります。バラは秋の十一月になつても四季咲バラは花が咲いているために秋晩く十一月下旬または十二月になつて、冬囲いする人が多かつたのですが、あまり遅く冬囲いすることはバラのためによくありません。少々バラの花は咲いておつて惜しくても十月下旬から十一月十日頃までには冬囲いしてやらなければなりません。それは十一月の下旬以後になると北海道では時として急に温度が零下八度乃至十度くらいに下ることがあります。このような時に冬囲いしてあれば安全ですが、冬囲いしてないバラの株は凍傷にかかつて枯れる場合がありますので、できれば十月二十五日頃から十一月十日頃までの間に冬囲いした方がよ

ろしいのであります。

冬囲いの方法

バラは前にも述べたように十一月になつても花は咲いておりますし、葉も着いておりますが、まず株の根元に土寄せをいたします。この土寄せは出来れば株の根元になるべく高く土が寄せられるようにいたします。土寄せができたところでバラの幹が一㍍五十㌢以上も伸びているものは一㍍ぐらいに鋏で切り、根元を縄で結び、この縄で上の方に向つて螺旋状に枝を中に入れて巻き上げ、先で結び、できたところで根曲竹を三本乃至四本深く株の周囲に押し込み、その先を一カ所に集めて縄で結びます。更に土寄せした株の周囲にモミジやニレの木の落葉を集めて来て入れてから、その外を莚で枝や幹が出ぬよう巻き先の方を縄で結び、莚で巻いたところを三カ所ぐらいほどけぬよう結んでやればよい。

いま一つの方法は秋の十一月初めになつたなら、バラの花が咲いておつても幹が一㍍半以上も伸びているものは、一㍍ぐらいに切り、縄で根元から枝を螺旋状に巻き上げてから、株の根元の一方だけを根をあまり傷めぬように掘つてバラの株を横倒にし、その根元や幹と枝に土を三十㌢位の厚さに覆土してやればよい。春雪どけ後、四月下旬頃枝を傷めぬよう土を除き元のように株をおこしてやればよいのである。

バラ鉢植の越冬法

鉢植のバラは秋十一月初め頃地室をもつている人は地室に入れて越冬すれば最も簡単ですが、地室のもつていない人は地下水のなるべく低い場所を選び、三十㌢ぐらいの深さに溝を掘り、バラの鉢植のものは枝を細縄でぐるぐる巻に巻いたものをこの溝の中に鉢のまま頭を上に向け斜にねかせ、その上から鉢やバラの枝が見えぬくらい十㌢内外の厚さに土をかけて、冬囲いした場所が雪の上からわかるように周囲に竹を立てておきます。春雪どけ後、四月中旬頃バラの枝を傷めぬよう注意して掘り出し、日当たりのよい霜の当たらぬような場所に置けば越冬させることができます。

蔓バラの冬囲い

蔓バラは垣根作りか、アーチ作り、柱作りなどがあり幹も二㍍から三㍍以上にも伸びておりますので、秋の十一月初め頃柱作りは柱と共にバラの幹を莚で囲ってやればよいのでありますが、垣根作りや、アーチ作りはそのまま莚で囲うということは実際には困難であるので、アーチや垣根からバラの蔓をひき離し蔓を纏めて五、六カ所縄で結び、地面に横に倒して、その上に莚で蔓の見えぬように覆い、更にその上に丸太かまたは石などの重しをして、蔓が立ち上がらぬようにすることが必要です。これは要するにバラの蔓を冬の間雪の上に出ぬようにすれば、雪の中は外気より暖かなために幹が冬枯れいたしません。春雪どけ後、四月下旬頃丸太や莚を取り除きバラの蔓は三、四年の古い幹や極細い蔓または枯れた幹は根元から切り取り元気のよく伸びているもの四、五本残し、これをアーチまたは垣根、柱などにそれぞれ棕櫚縄で結び付けてやることが必要です。

高山植物の冬囲い

高山植物の冬囲いは鉢植の場合とロックガーデン（高山植物園）とは冬囲いの方法が違うので、高山植物の鉢植の冬囲いから述べることにいたします。高山植物の鉢植の冬囲いは秋の十一月初旬頃あまり日当たりのよくない少々日陰になるような、春雪どけの遅い場所を選んで高山植物の鉢を地面に生け込み地上に鉢を出さぬよう、土をかけておけばよい。この鉢を地面に生け込むということは冬の寒さのため出して置くと凍つて割れるのを防ぐためである。なおこの中で灌木類すなわちホソバイソツツジ、ガンコウラン、キバナシャクナゲ、サカイツツジ、チシマヒョウタンボク、シロバナコメツツジ、タカネナナカマドは鉢を地面にいけ込んだならその周囲に添竹を数本立て円錐形にしてその頭を束ね、竹と竹との間を縄で碁の目にあんで枝が折れぬようすることが必要であります。また、このような土地に板を敷き、その上に高山植物の鉢植を並べることもよいが、冬の寒さのため鉢の割れることが多く地面に生け込んだ方がよい。場所は日当たりのよい場所に置くと春の三月頃の雪どけが早く、それがため外気が日中は暖かであるが、夜分は急に温度がさがるために寒暖の差がひどいので、その間に高山植物が傷む物ができる。それであるから、冬囲いの場所は春の雪どけの最も遅いような場所で外気の夜分と日中との温度の差が少なくなつて四月初め頃、雪がとけて高山植物が雪から出て来るというような場所を選ぶことが秘訣である。

本州方面の暖地では冬の間、雪があまり降らないので霜柱の害を受けることが多いから、あまり日当たりのよくない場所を選んで、高山植物の鉢植は必ず鉢の見えぬ程度に地面に生け込みその上から霜除けのため落葉を敷くことがあるが、この方法は時として冬の間に昆虫類をその中に導いて害を受ける場合もあるので、蓆で南方を明けた片尾根の霜覆を造り、その下で冬越させるのが最も安全である。

ロックガーデンの場合

ロックガーデンの場合は岩の間に高山植物を植込んであるので、雪どけの暗い場所を選ぶというようなことはできないのであるから、高山植物を植込んである場所には落葉を敷き、風で飛散しないように落葉の上に小石などを置くか、または籾殻を敷くことも一法である。灌木類すなわち、キバナシャクナゲ、ホソバイソツツジ、シャクナゲその他の灌木類には、枝が雪折れしないよう円錐形に束ね、その周囲に細竹を三、四本立てて、先端を一カ所に集め、縄で結び、更に竹の間を賽の目に束ねてやることが必要である。春三月頃になると、日当たりのよい場所は高山植物が雪の間から出てくるので、雪から現われないよう附近の雪を集めて人工的に雪を覆つて、四月初旬以後に雪が消えるようにすることが必要である。これは高山植物の鉢植の場合、冬囲いの場所は、なるべく雪どけの遅い場所を選ぶと同じことで、外気が寒い三月中に高山植物園の植物が雪から外に出ると、日中は暖かくても、夜分は急激に温度がさがるということが高山植物園の植物を傷める原因になるから、注意することが必要です。

（雪印種苗造園部）